

お知らせ:次回発信日は6月12日週報(予定)

Jミルクが2025年5月30日に公表した「需給見通し(※2025年3月迄実績)」の予測値と直近の実績値(牛乳乳製品統計)をグラフ化しています。「牛乳乳製品統計(農林水産省)」の公表に併せて、今後も毎月配信していきます。

発行:一般社団法人Jミルク生産流通グループ

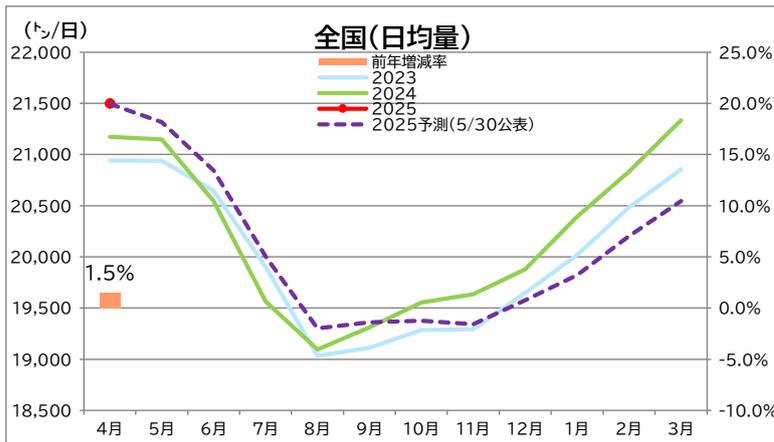
- ・4月の全国の生乳生産量は、前年同期比+1.5%(日均量、以下同)と9カ月連続で上回った。地域別では、北海道が同+2.9%と9カ月連続で増加した一方、都府県では▲0.3%と10カ月連続で前年を下回った。指定団体受託乳量(速報)では、北海道(ホクレン)が昨年8月下旬から今年5月下旬まで9月連続で前年水準を上回っている。4月から5月にかけて増加幅は縮小傾向にあったが、5月中下旬は再び拡大した。都府県は、3月下旬に約10か月ぶりに前年水準を上回り、その後はおおむね前年並みで推移している。
- ・4月の牛乳生産量は、乳価改定の影響が昨年8月で一巡したこともあり日均ベース+0.1%と8カ月連続(日均量)で前年水準を上回っている。一方、業務用および学乳を除く牛乳(家庭用牛乳)の生産量は▲0.3%と9か月ぶりに前年水準を下回った。また、成分調整牛乳および乳飲料、加工乳は引き続き低調で、いずれも前年水準を下回った。はっ酵乳については、昨年春ごろからの回復基調が継続しており、4月は+0.5%と11カ月連続で前年水準を上回ったものの、増加幅は前月から縮小している。こうした中で、生乳の飲用等向処理量は+0.3%と7カ月連続で前年水準を上回った。
- ・4月の脱脂粉乳の生産量は15.5千ト、推定出荷量は11.6千トと需要量が供給量を下回り、月末在庫量は56.0千ト(+9.7%)となり、5カ月連続で前年水準を上回った。バター生産量は7.7千ト、推定出荷量は6.6千ト、輸入売渡数量は1.2千トと供給量が需要量を上回ったため、在庫量は約2.3千ト増加し29.5千トとなった。
- ・牛乳類の5月の販売動向は、4品目すべて前年水準を下回った。3月までは、ドラッグストアでの販売個数が堅調に推移していたものの、4月以降は全業態で減少傾向が続いている。例年であれば、気温の上昇に伴って消費が伸びる時期だが、コメなどの食品を含めた物価高騰の影響で家計における消費支出が増加する一方、実質賃金が4か月連続でマイナスとなっていることなどを背景に、牛乳類への消費マインドが抑制されている状況にある。
- ・こうした中、5月のゴールデンウィーク期間を過ぎても生乳需給は緩和状態が続いている。6月の「牛乳月間」には、全国各地で牛乳の魅力伝える多様なイベントが予定されている。これらの取り組みを通じて、業界全体で牛乳乳製品の消費拡大に向けた活動を一層強化していくことが重要である。
- ・直近(5/26週)の販売動向では、牛乳類が前年比95.7%と前週から減少幅が拡大した。6月には乳製品、8月には飲用等向けの乳価引き上げも控えており、価格上昇に伴う需要減退を回避するためにも、関係者による積極的な需要喚起と消費者への理解醸成が引き続き求められる。
- ・はっ酵乳の販売個数は、1月中旬以降ピークを過ぎた状態が続いており、3品目の合計販売個数は9週連続で前年水準を下回っている。
- ・家庭用バターについては、販売単価が5週ぶりに上昇した一方で、販売個数は3週連続で前年水準を下回っている。

【生乳生産量】※増減率は、日均量で算出。

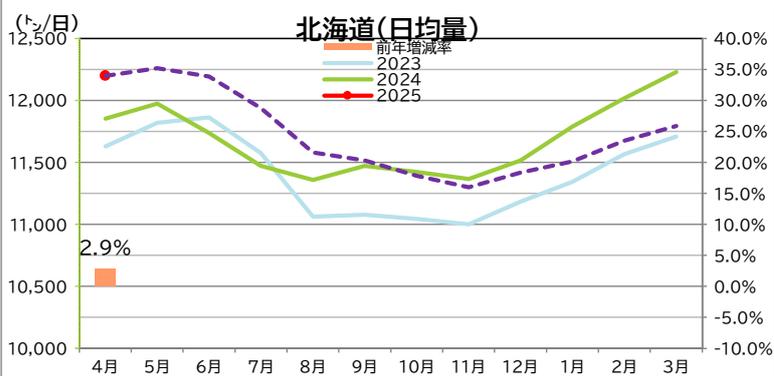
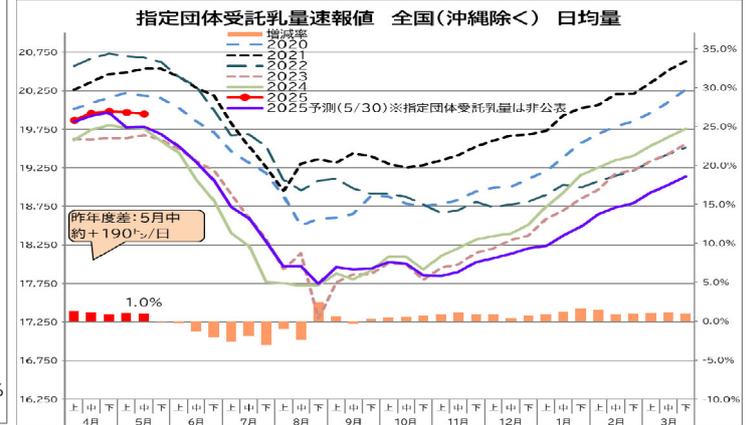
(1)4月の生乳生産量は、全国644.8千ト(前年同月比101.5%)、北海道366.0千ト(同102.9%)、都府県278.9千ト(同99.7%)。

(2)1月に公表したJミルク予測値(全国635.5千ト、北海道358.3千ト、都府県277.2千ト)との比較は北海道、都府県ともに上振れた。

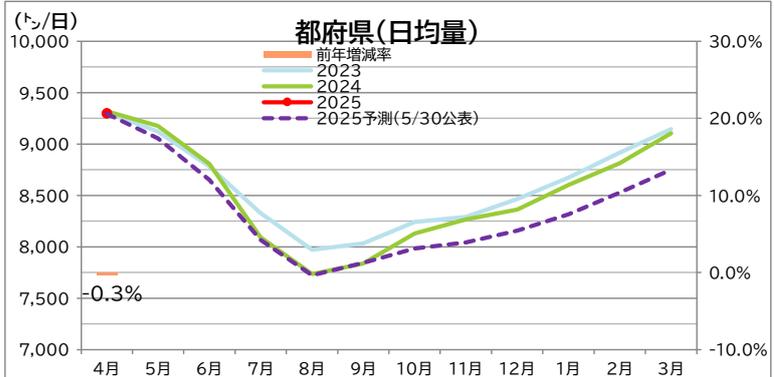
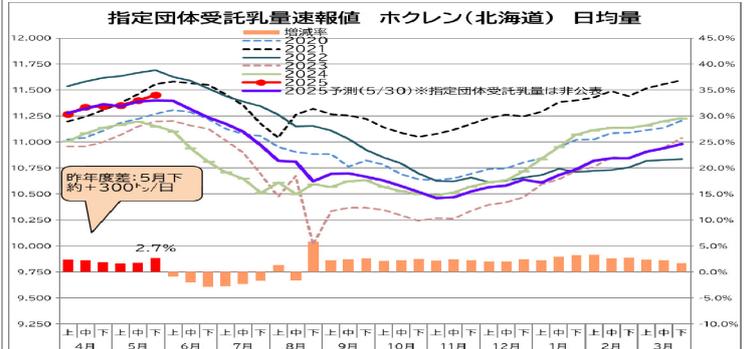
(3)直近の指定団体受託乳量速報値は全国が5月中旬(最新、以下同)で同101.0%、都府県(沖縄除く)が同99.9%、北海道は5月下旬で同102.7%となった。



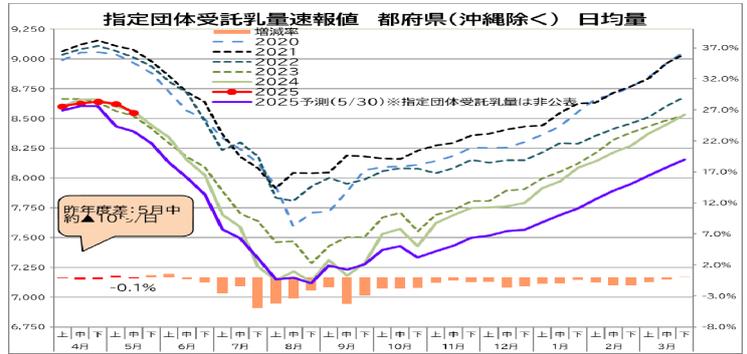
指定団体受託乳量速報値 全国(沖縄除く)※5月中旬



指定団体受託乳量速報値 ホクレン※5月下旬



指定団体受託乳量速報値 都府県(沖縄除く)※5月中旬

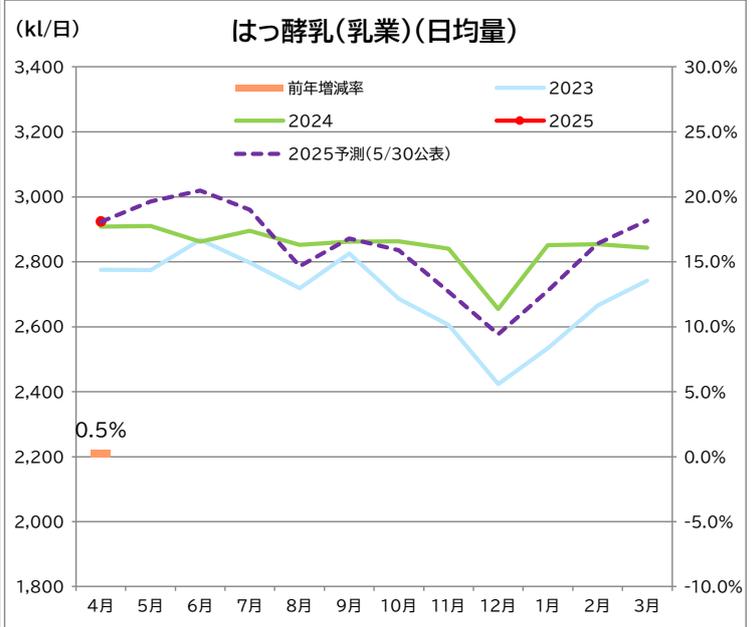
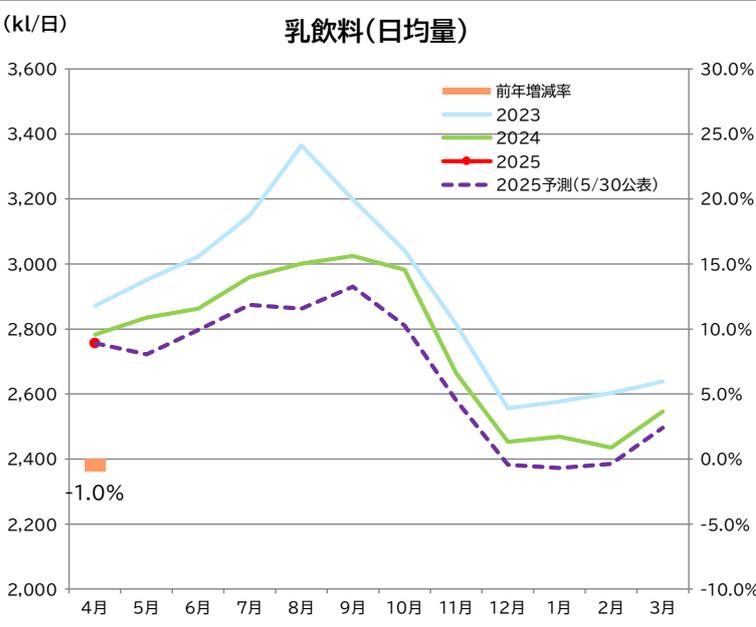
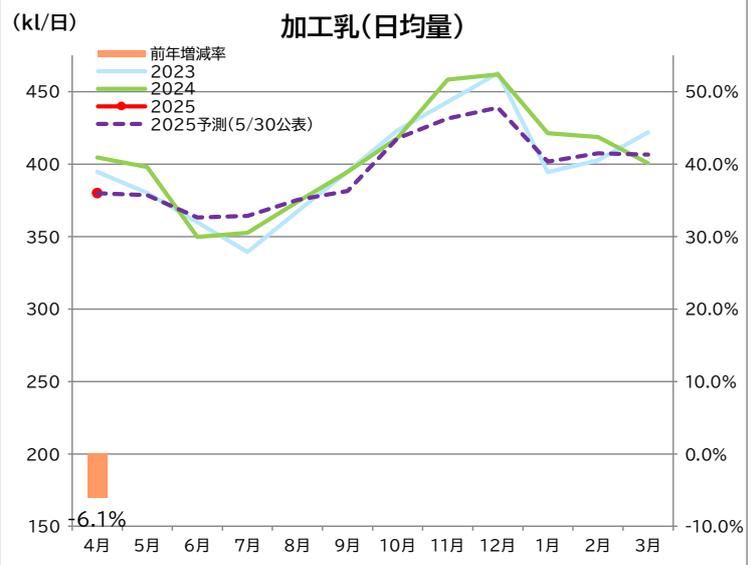
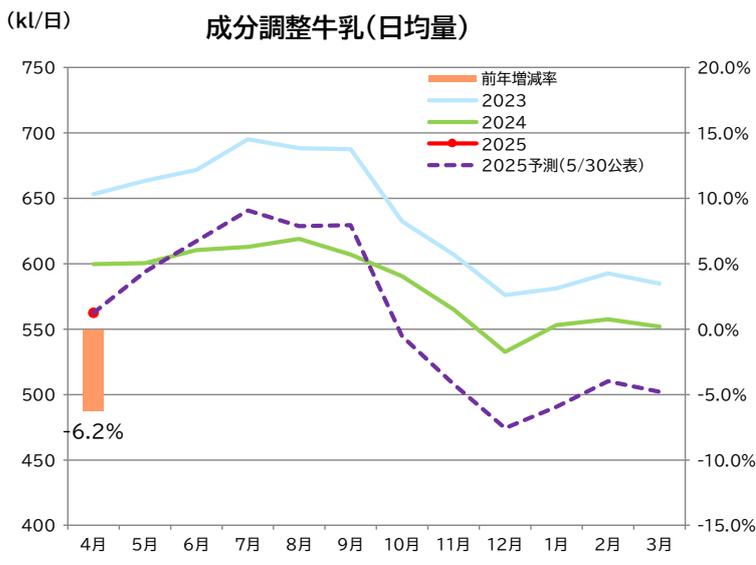
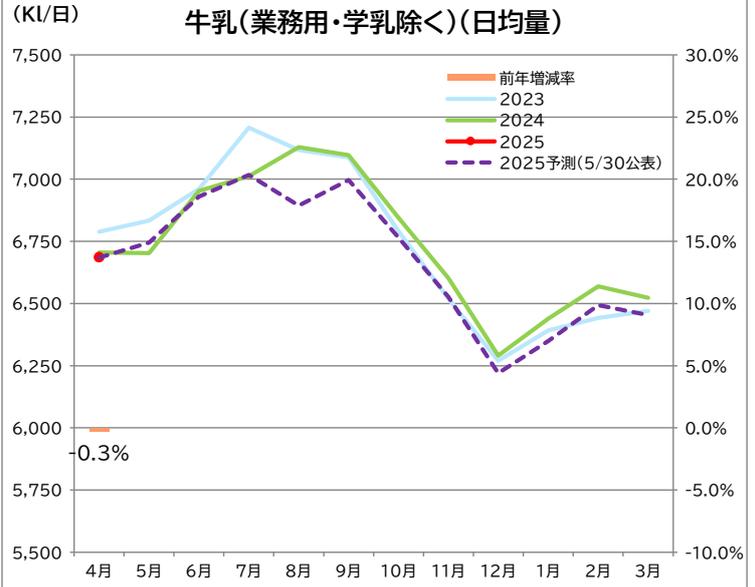
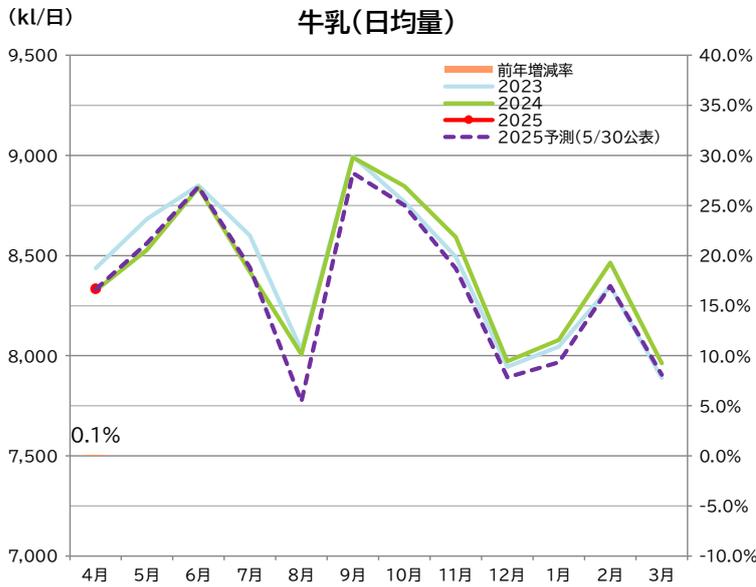


【牛乳等生産量】 ※増減率は、日均量で算出。

(1)4月の牛乳等生産量は、牛乳250.0千kl(前年同月比100.1%)、成分調整牛乳16.9千kl(同93.8%)、加工乳11.4千kl(同93.9%)、乳飲料82.7千kl(同99.0%)。牛乳類合計(牛乳・成分調整牛乳・加工乳・乳飲料)では、360.9千kl(同99.3%)となり、29カ月連続で前年を下回った。

(2)「牛乳」のうち、「業務用以外」は、同99.7%、「業務用」は同102.5%、「学乳」は101.0%。

(3)はっ酵乳(乳業)は87.7千kl(同100.5%)と10カ月連続で前年を上回った。はっ酵乳(非乳業:3月実績)は97.1%となった。

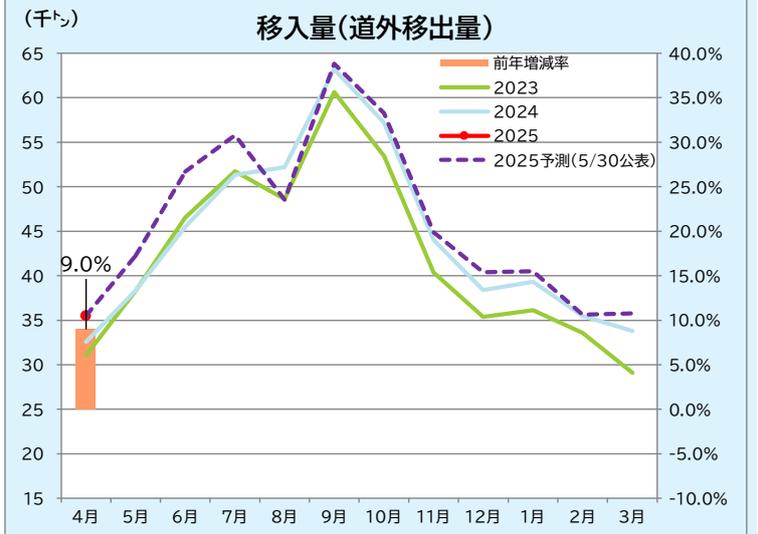
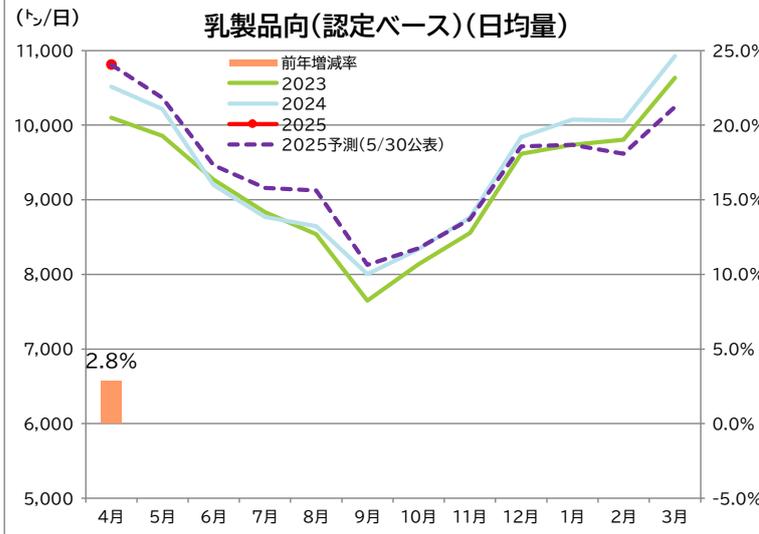
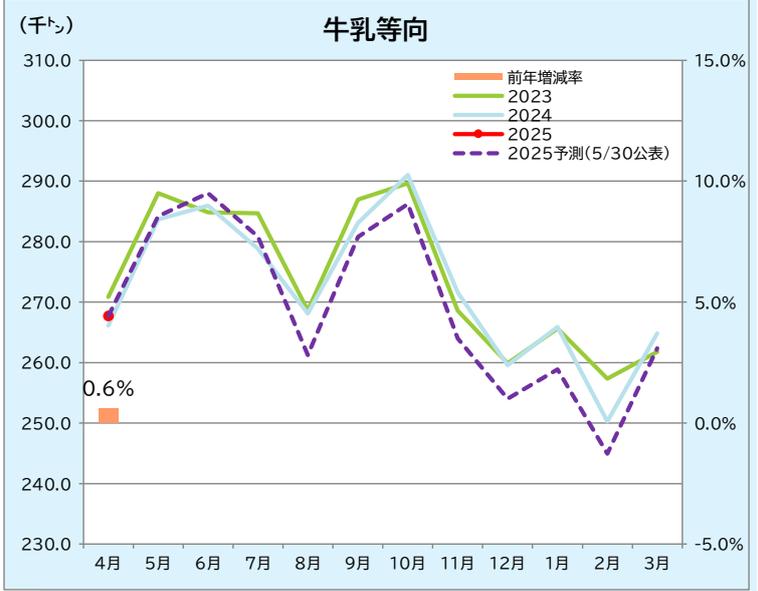
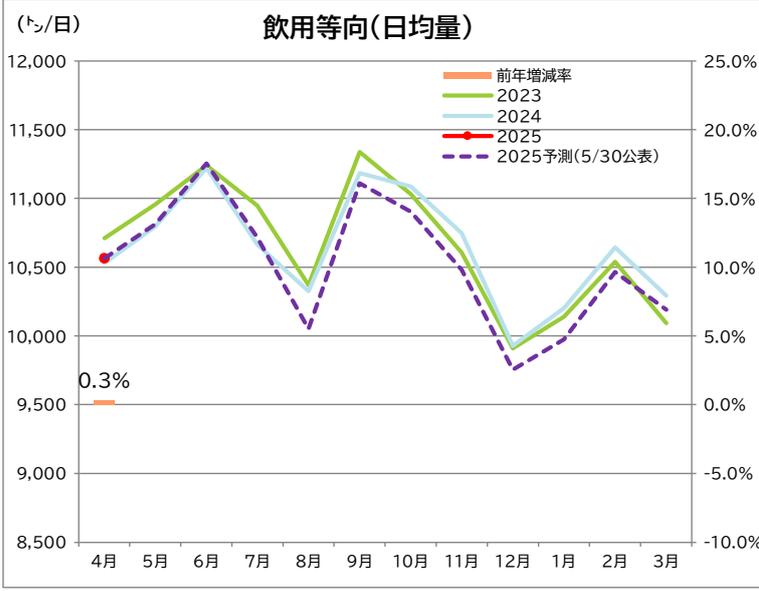
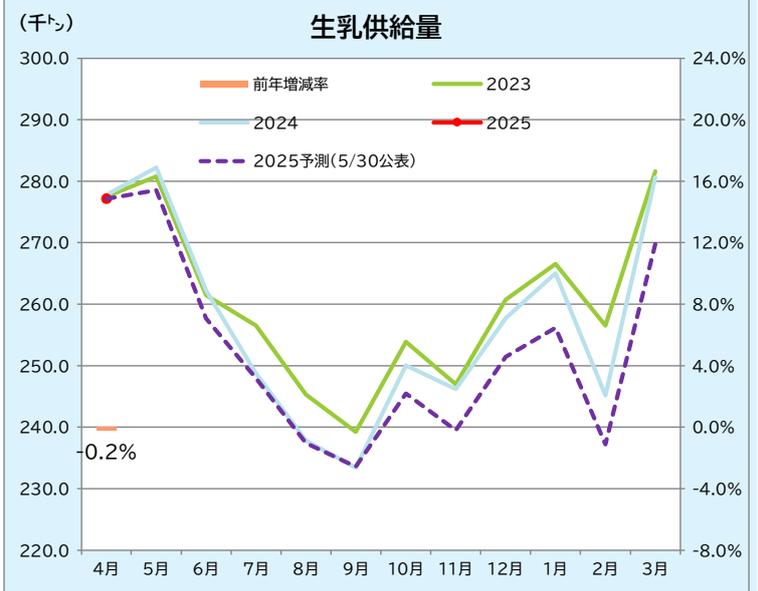
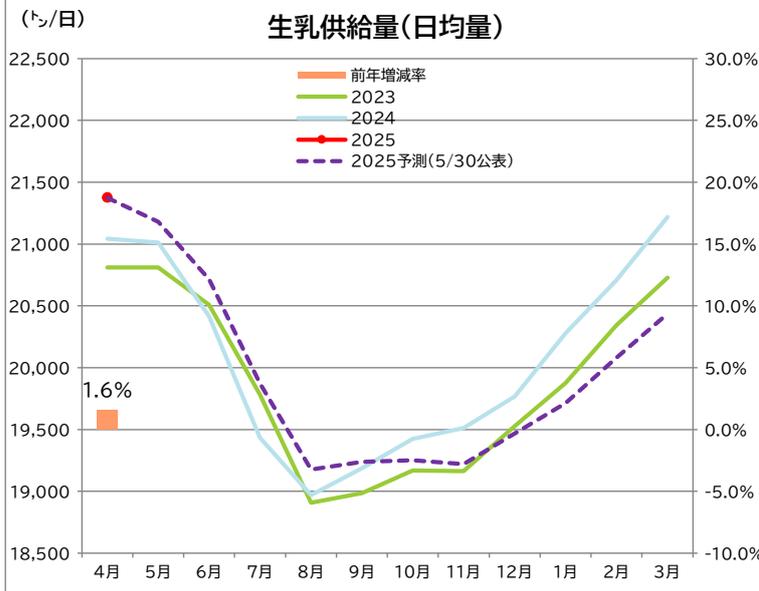


【用途別処理量(全国)】 ※増減率は、日均量で算出。

(1)4月の生乳供給量は641.3千ト(前年同月比101.6%)、飲用等向316.9千ト(同100.3%)、乳製品向(認定ベース)324.4千ト(同102.8%)。
 (2)飲用等向が7か月連続で前年を上回ったが、生乳供給量も前年を上回り、結果として乳製品向も9か月連続で前年を上回った。
 (3)1月に公表した予測値との比較では、生乳供給量(予測値:631.5千ト)は大きく上振れ、飲用等向(予測値:316.1千ト)も上振れ、乳製品向(予測値:315.4千ト)も上振れとなった。

【都府県の生乳需給】

(1)4月は、生乳供給量277.1千ト(前年同月比99.8%)、牛乳等向267.7千ト(同100.6%)。
 (2)北海道からの移入量については35.5千ト(同109.0%)と前年を上回った。
 (3)1月に公表した予測値との比較では、生乳供給量(予測値:275.3千ト)は上振れ、牛乳等向(予測値:266.0千ト)は上振れ、移入量(予測値:35.8千ト)も上振れとなった。

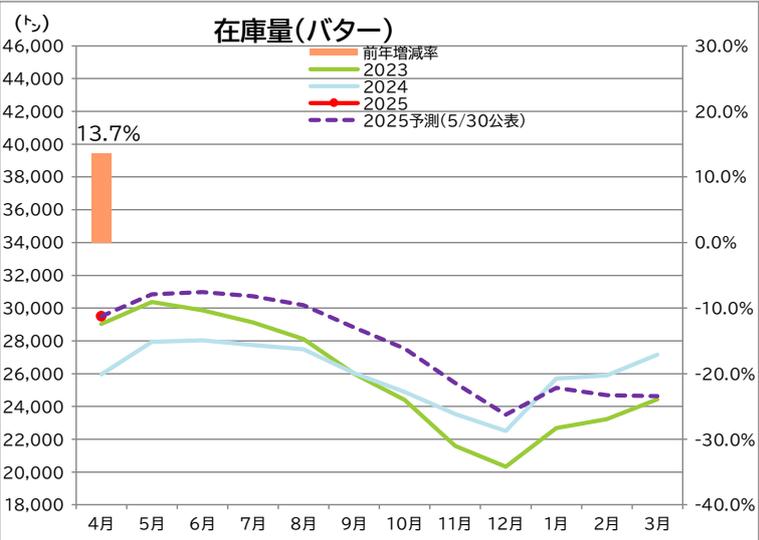
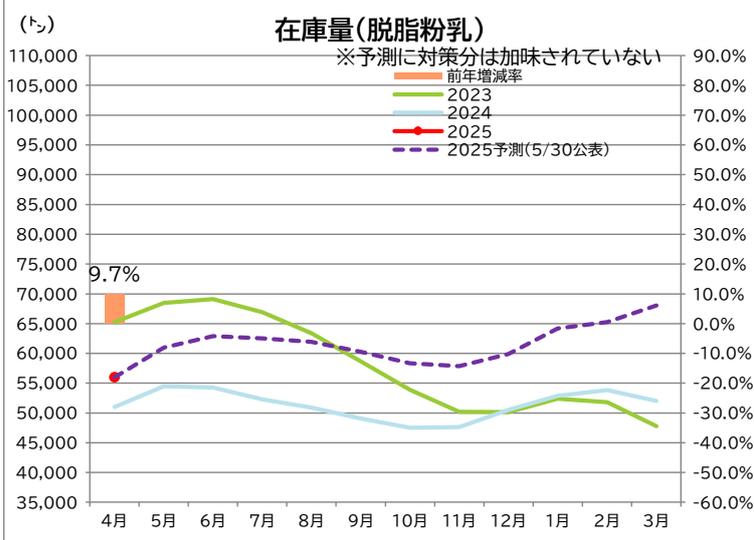
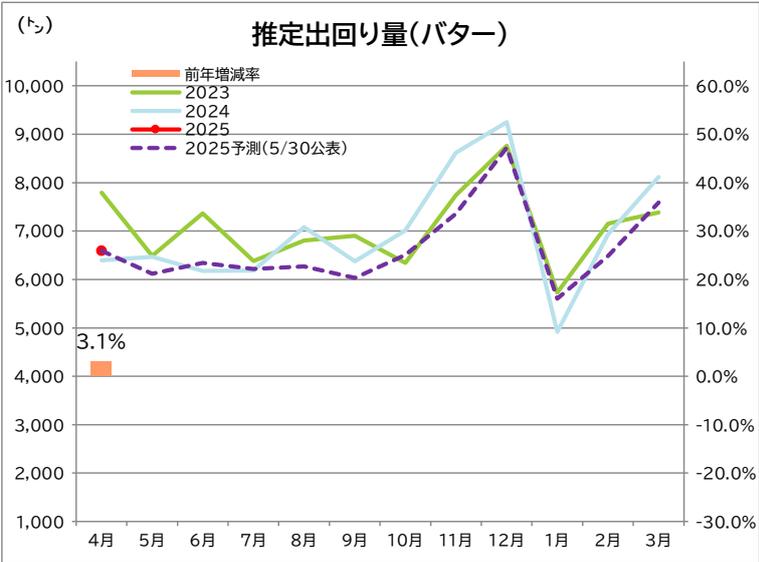
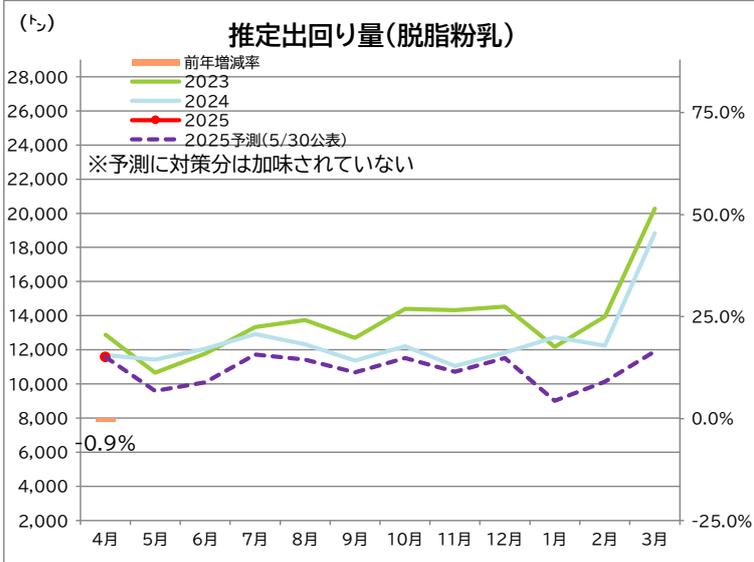
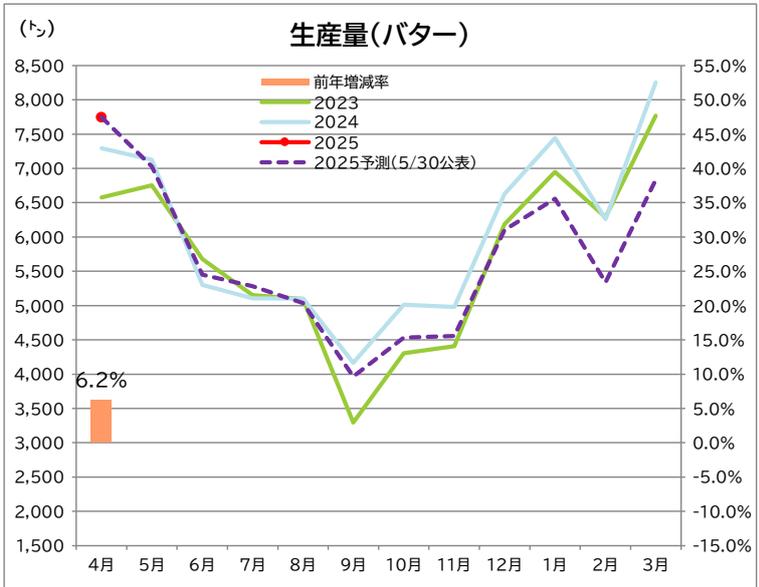
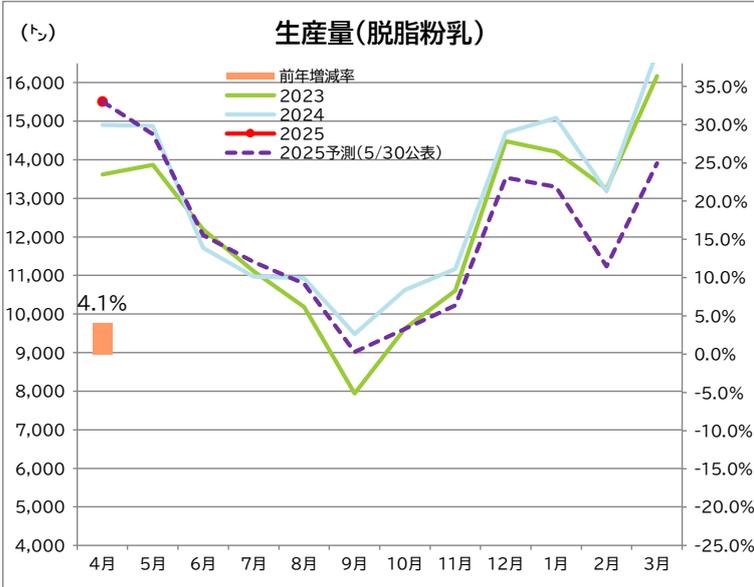


【脱脂粉乳・バターの需給】

(1) 脱脂粉乳について4月の生産量は15.5千ト(前年同月104.1%)、推定出回り量は11.6千ト(同99.1%)となった。出回り量が生産量を下回ったため在庫量は前月から3.9千ト程度増加し、55.9千ト(同109.7%)となった。在庫量は昨年12月、約2年3カ月ぶりに前年水準を上回り、4月も5カ月連続で前年水準超えとなった。※なお、推定出回り量の実績について、前年度の実績から在庫対策を差し引いた数量との比較は107.2%。

(2) バターについて、4月の生産量は7.7千ト(同106.2%)、推定出回り量は8.1千ト(同103.1%)となった。国家貿易による輸入売渡分(約1.2千ト)も考慮すると在庫量は前月から約2.3千ト増加し29.5千ト(同113.7%)となった。在庫量は8カ月連続で前年超え。

▶脱脂粉乳とバターの需要のアンバランスが表面化するなか、飲用需要が低調に推移している。脱脂粉乳は、積み増しを避けるべく需要拡大や理解醸成活動による消費の底上げを図る必要がある。バターは、消費動向を注視し、国家貿易による対応も含めて需要に対応した安定供給に努める必要がある。



【牛乳類の販売速報(推定値):インテージSRI+】 ※量販店・コンビニ等、小売店の販売実績

(1)4月の動向(表①参照)

・販売個数は、牛乳:前年同月比97.8%、成分調整牛乳:同95.7%、加工乳:同90.7%、乳飲料:同93.5%。牛乳類全体:同96.9%

【参考】2023年4月比…牛乳:94.3%、成分調整牛乳:80.6%、加工乳:101.9%、乳飲料:93.2%(牛乳類トータル:93.4%)

(2)直近の週次動向(表②・グラフ参照)

・直近(5/26)の販売個数は、牛乳:前年同期比96.4%、成分調整牛乳:同95.2%、加工乳:同88.7%、乳飲料:同93.8%。牛乳類トータルでは同95.7%

出典 (株)インテージSRI+週データ。販売本数、販売単価(税抜)については推定値。データ転用はご遠慮下さい。

【表① 牛乳類の月別販売動向】

単位:千個、円

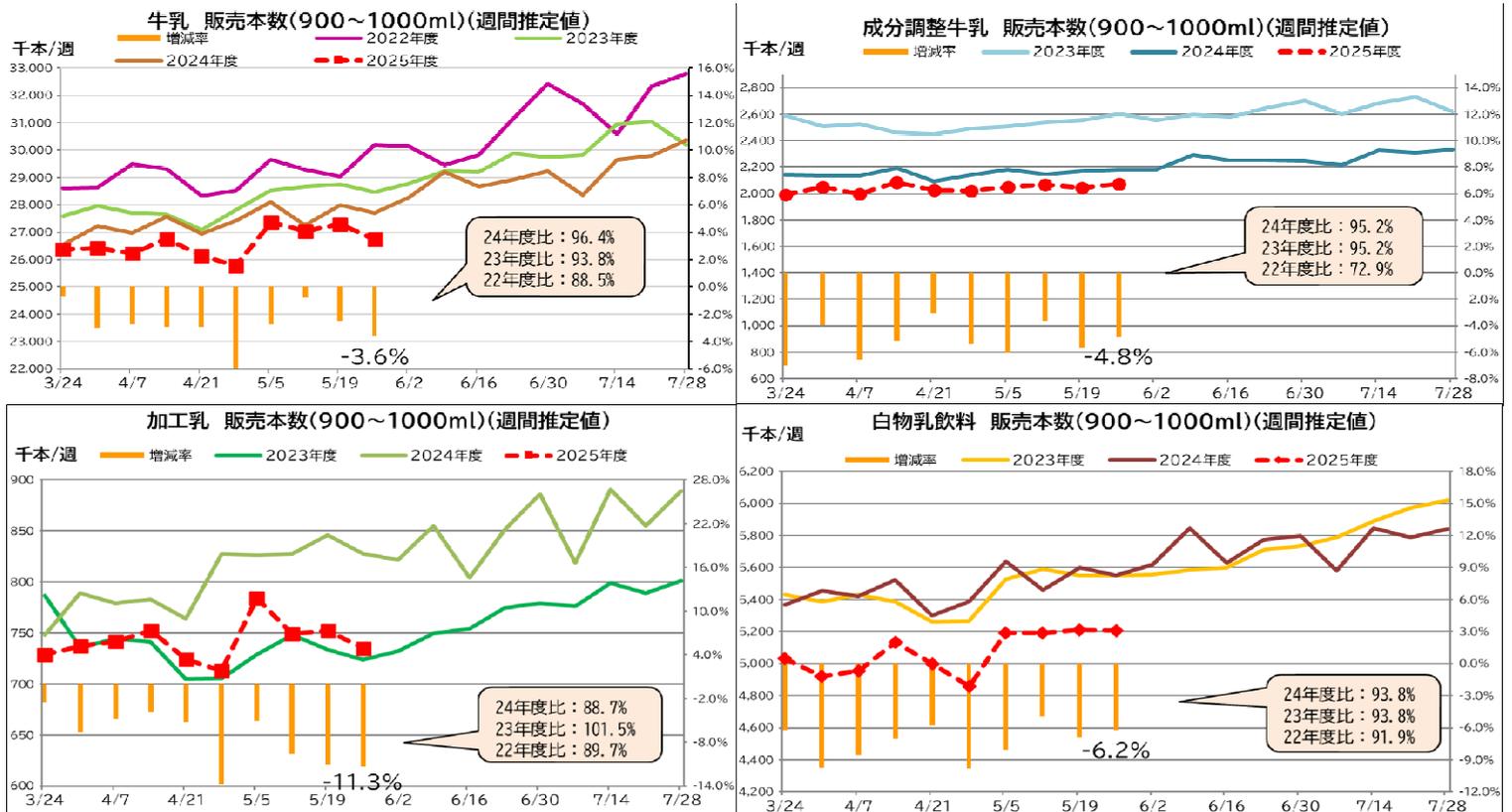
品目	区分	2024/12-	2025/1-	2025/2-	2025/3-	2025/4-	2025/5-	2025/5- 2022/10価格差	2025/5- 2023/3価格差	2025/5- 2023/7価格差
		販売個数	149,786	142,418	134,275	149,689	146,253	153,204		
トータル	販売個数前年比	98.3	97.6	95.7	98.1	95.6	96.9	33.0	17.9	16.1
	販売単価	216.3	216.3	215.9	215.6	215.9	216.1			
牛乳	販売個数	115,582	109,654	103,489	115,533	112,919	118,273			
	販売個数前年比	99.6	98.8	96.8	99.1	96.5	97.8	34.7	18.4	17.6
成分調整牛乳	販売個数	9,170	8,702	8,211	8,882	8,741	9,017			
	販売個数前年比	95.5	96.0	93.4	94.4	94.6	95.7	32.2	16.5	13.0
加工乳	販売個数	3,280	3,094	2,867	3,220	3,169	3,287			
	販売個数前年比	98.4	97.4	95.8	99.7	94.2	90.7	28.7	19.0	8.0
乳飲料	販売個数	21,754	20,968	19,708	22,053	21,424	22,627			
	販売個数前年比	92.8	92.7	91.4	94.3	91.7	93.5	24.2	13.6	9.9
	販売単価	173.4	172.6	172.9	173.1	173.4	173.7			

速報値

【表② 牛乳類の販売動向(直近の週次動向)】

品目	区分	4.7-	4.14-	4.21-	4.28-	5.5-	5.12-	5.19-	5.26-	25.5.26- 22.10.24 価格差	25.5.26- 23.3.20 価格差	25.5.26- 23.7.24 価格差
		販売個数	33,910	34,736	33,898	33,378	35,370	35,059	35,297	34,739		
トータル	販売個数前年比	96.1	96.3	96.6	93.3	96.2	98.2	96.4	95.7	32.6	17.7	15.3
	販売単価	216.0	215.7	216.0	216.7	215.6	215.9	216.0	215.8			
牛乳	販売個数	26,214	26,769	26,149	25,783	27,344	27,046	27,286	26,723			
	販売個数前年比	97.2	97.1	97.0	94.0	97.3	99.2	97.5	96.4	34.5	18.2	17.0
成分調整牛乳	販売個数	224.7	224.6	224.9	225.6	224.3	224.8	224.6	224.8			
	販売個数前年比	93.4	94.9	96.9	94.6	93.9	96.3	94.3	95.2	31.3	16.4	11.8
加工乳	販売個数	742	752	724	713	784	749	752	735			
	販売個数前年比	95.3	96.1	94.8	86.2	94.9	90.5	88.9	88.7	28.4	18.1	7.5
乳飲料	販売個数	4,957	5,132	4,997	4,858	5,191	5,194	5,213	5,206			
	販売個数前年比	91.4	92.9	94.2	90.2	92.0	95.2	93.1	93.8	23.7	13.9	9.2
	販売単価	173.7	173.4	173.0	174.0	173.0	173.9	173.8	173.4			

【グラフ 各品目直近の販売本数推移】



【ヨーグルト類の販売速報(推定値):インテージSRI+】

(1)直近の週次動向(表⑤参照)

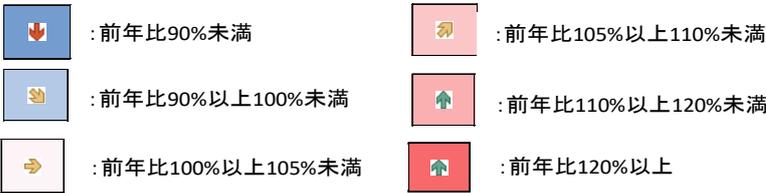
直近(5/26週)の販売個数は、ドリンクタイプ(90~250ml):前年同期比90%以上、個食タイプ(70~130ml):同90%以上、大容量タイプ(350~500ml):同100%以上。はっ酵乳全体としては、前年を若干下回る推移となっている。(3品目合計前年同期比90%以上)。

(2)販売個数について、前週(5/26週)との比較では、3品目いずれも減少した。

※出典 (株)インテージSRI+週データ。販売個数については推定値。データ転用はご遠慮下さい。

【表⑤ ヨーグルト類の販売動向】

品目	4.7-	4.14-	4.21-	4.28-	5.5-	5.12-	5.19-	5.26-
ドリンクタイプ	➡	⬇	⬇	⬇	⬇	⬇	⬇	⬇
個食タイプ	⬇	⬇	⬇	⬇	⬇	⬇	⬇	⬇
大容量タイプ	➡	⬆	⬆	➡	➡	⬆	➡	➡



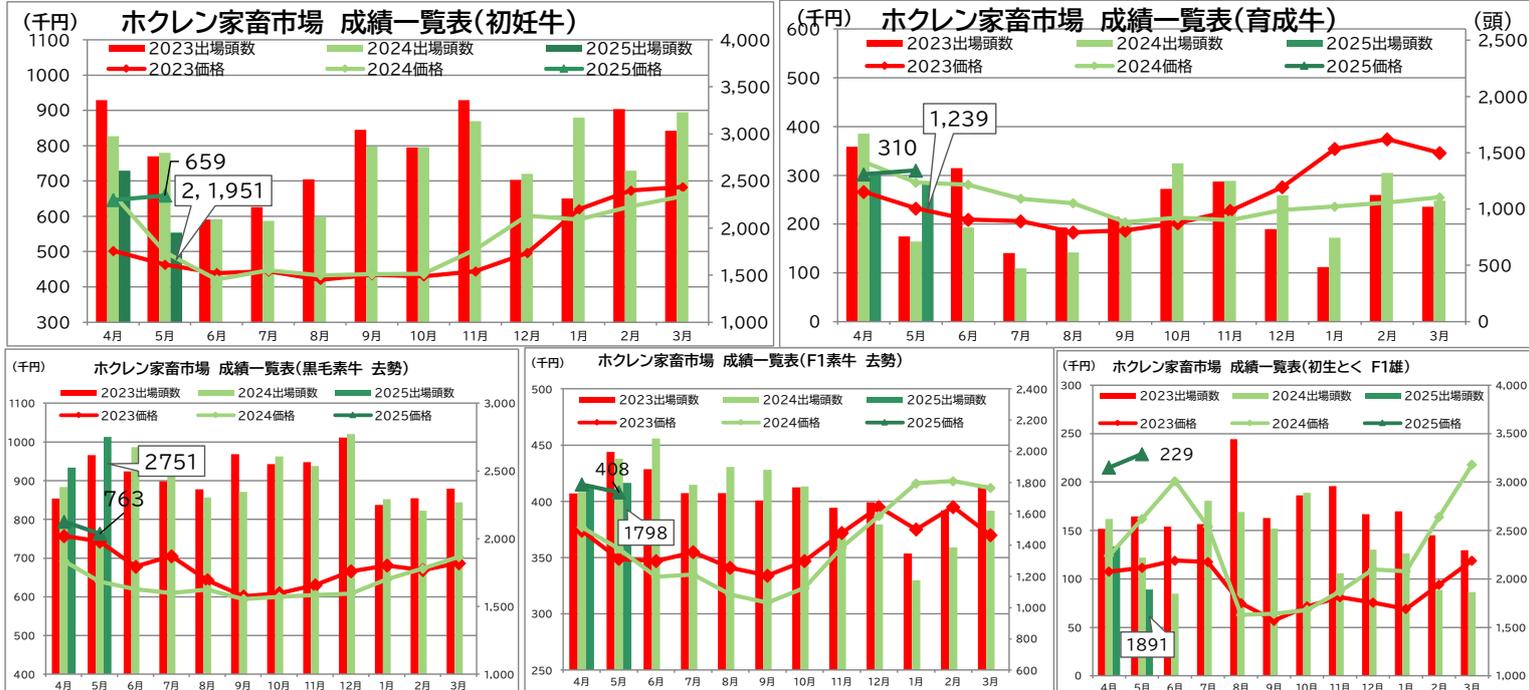
※なお、下地の色が濃いほうが、上記範囲内で前年との増減差が大きいことを表す。

【家畜販売価格動向(税込)】

(1)5月の家畜販売価格動向について、ホクレン家畜市場集計によると、初妊牛価格は659千円(前年同期比132.1%)、育成牛価格は310千円(同108.8%)、和牛素牛(去勢)価格763千円(同119.4%)、F1素牛(去勢)価格は408千円(同114.0%)。初妊牛は4カ月連続で60万円以上、育成牛は2カ月連続で30万円台を維持し7カ月ぶりに前年水準を上回った。ホル初生(雄)価格は100千円(同125.0%)と、3か月連続で前年水準を上回った(グラフ無し)。

(2)出場頭数(出回り頭数)は、初妊牛:同69.7%、育成牛:同174.5%、F1初生(雄):同85.1%、和牛素牛(去勢):同140.8%、F1素牛(去勢):同92.0%。

※ホクレン家畜市場集計表 速報値(<https://www.kachiku.hokuren.or.jp/Downloadresult.aspx>)



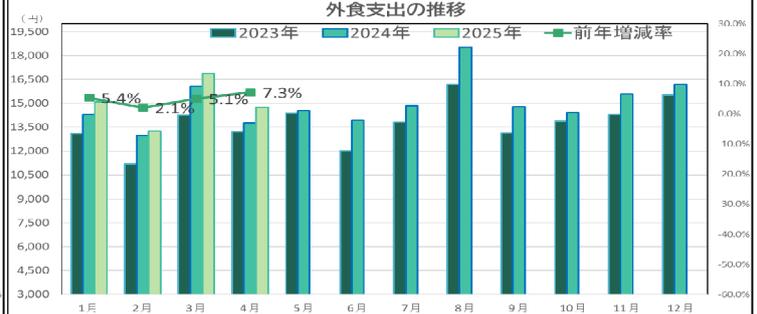
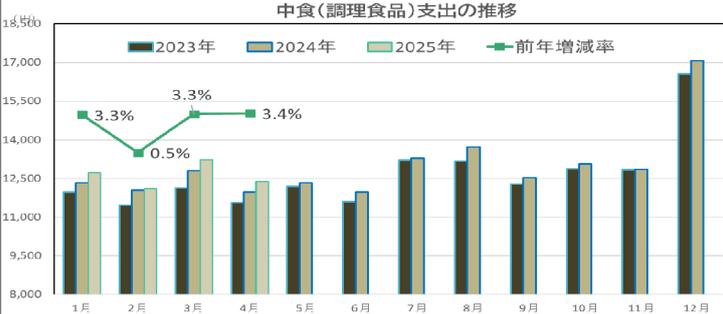
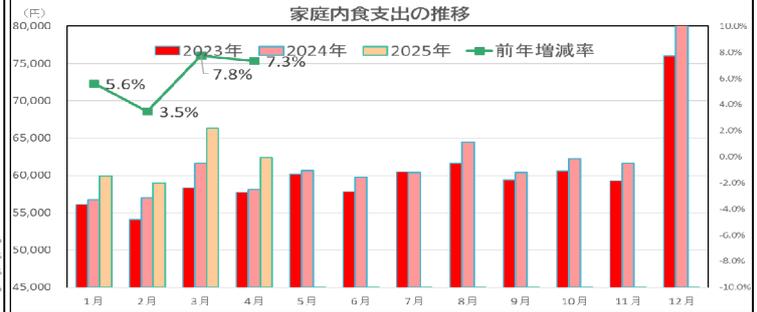
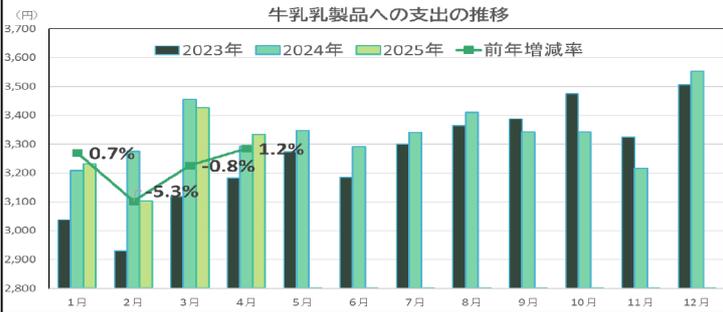
【家計支出の動向】

(1)4月の支出額前年比について、外食107.3%、中食103.4%、内食107.3%といずれも前年を上回り、食料全体への支出額は106.8%となった。

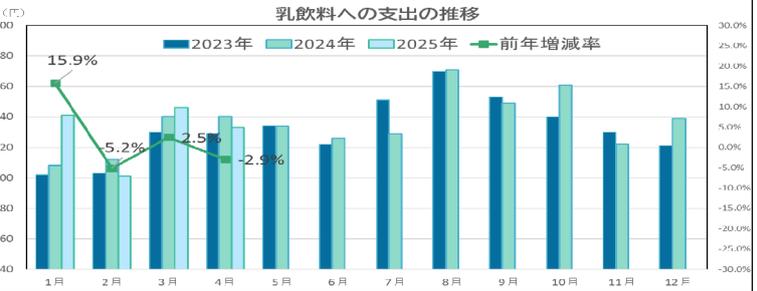
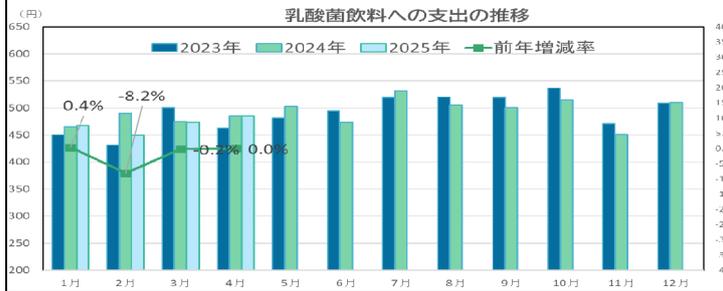
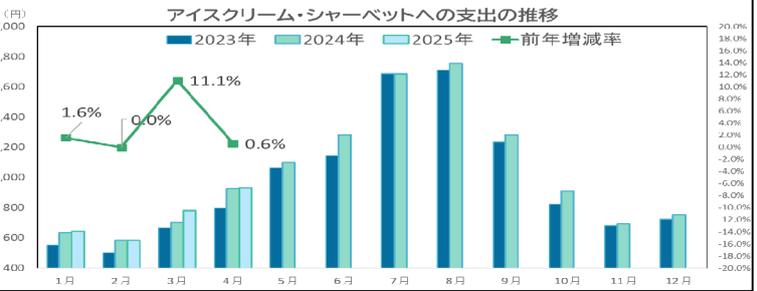
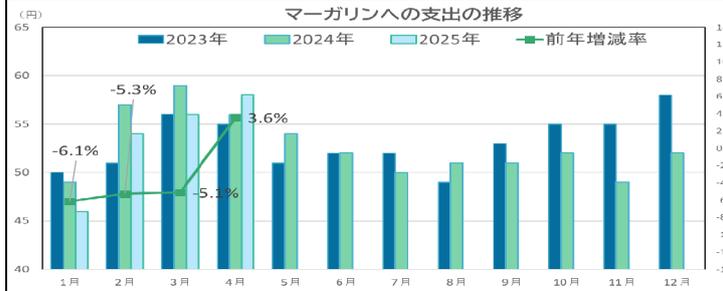
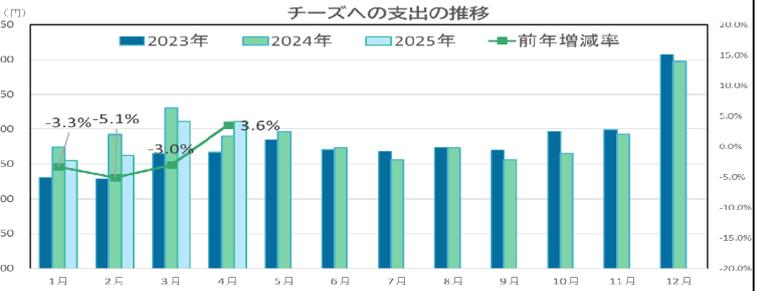
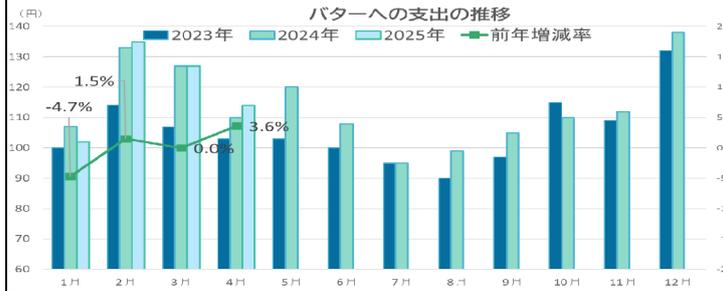
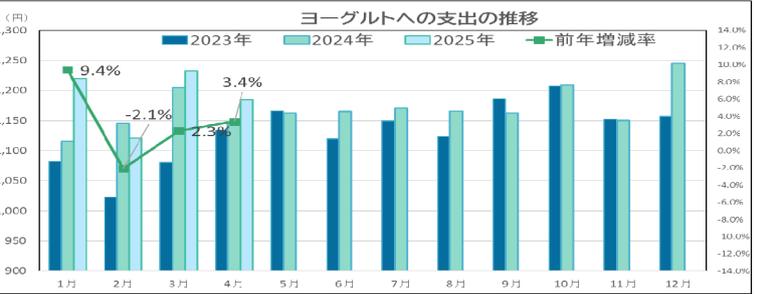
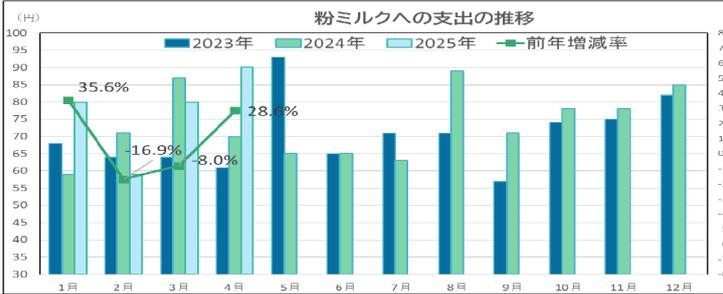
(2)牛乳乳製品の支出額も前年比101.2%(うち牛乳95.4%、乳製品105.1%)と3カ月ぶりにで前年を上回った。

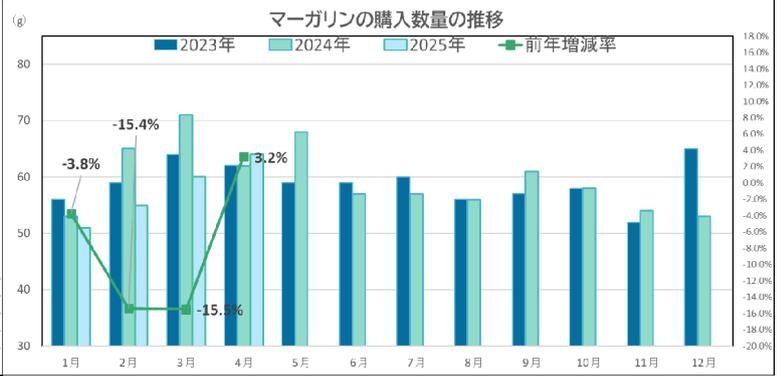
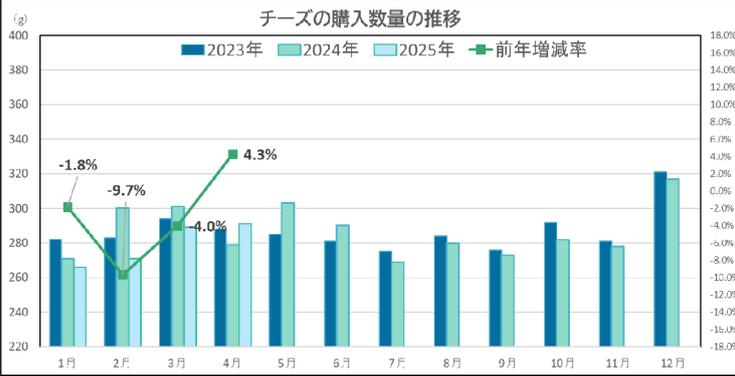
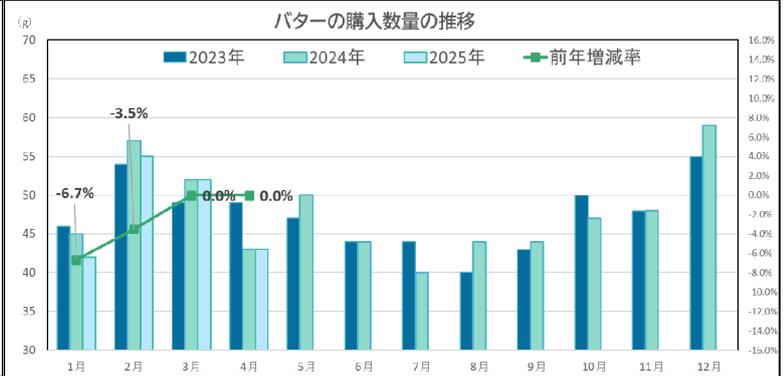
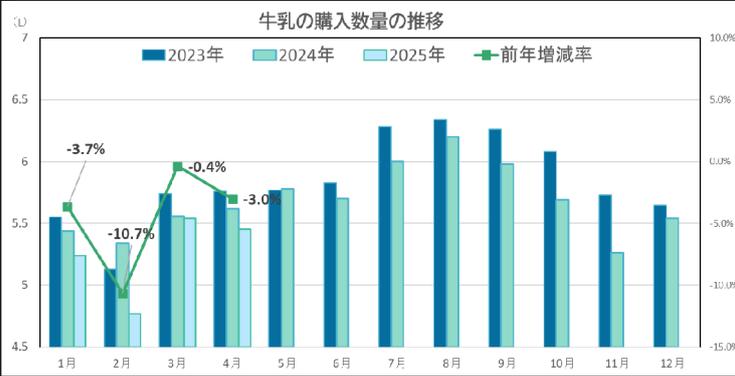
(3)なお、購入量は、牛乳97.0%(1世帯当たり5.45)と11か月連続で前年割れ。チーズは10カ月ぶりに前年超え、バターは2カ月連続で前年超えとなった。

※総務省家計調査(二人以上の世帯。家庭内食は、食料-調理食品-外食で独自に算出)



【参考:その他品目支出の動向】



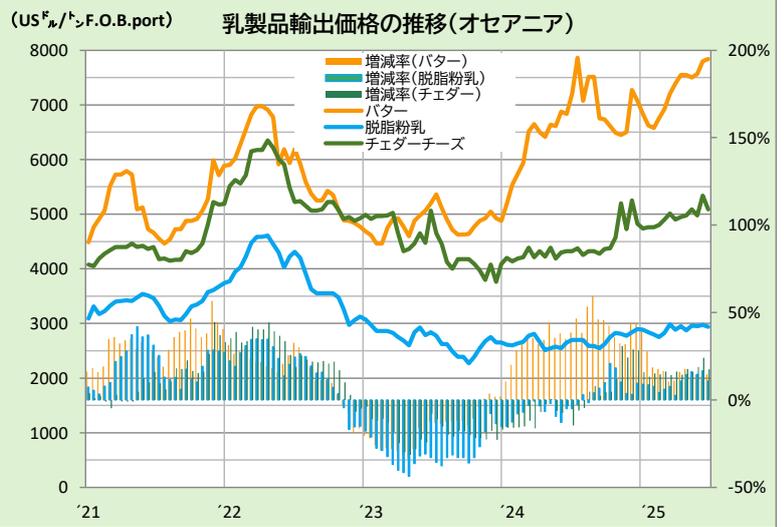
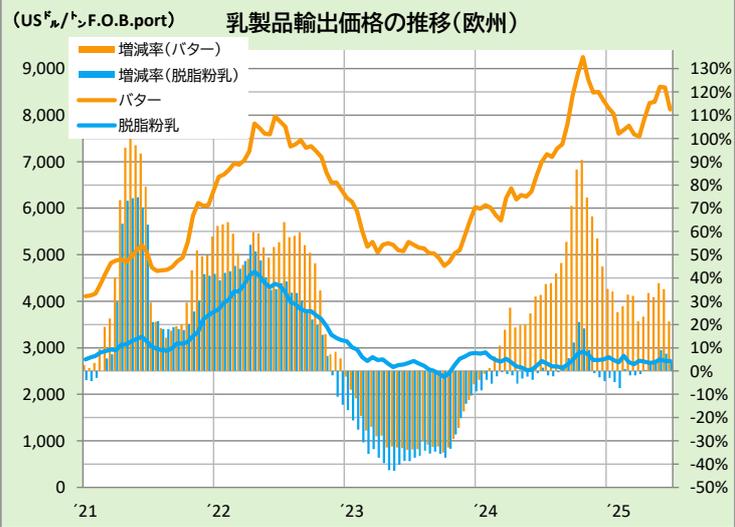


【乳製品輸出価格の動向】

(1)直近の乳製品国際相場について(5月中旬)

- ・欧州: 脱脂粉乳2,713ドル/ト、バター8,125ドル/ト中心
- ・オセアニア: 脱脂粉乳2,938ドル/ト、バター7,838ドル/ト、チェダーチーズは5,088ドル/ト中心

※出典: 米国農務省 (USDA)



※「2025年度国産牛乳乳製品の需要拡大等事業 独立行政法人農畜産業振興機構 後援」